



2024年3月期 第3四半期決算に関するお知らせ

日本酸素ホールディングス(株) (社長 CEO: 濱田 敏彦) は、2024年3月期第3四半期の業績が確定しましたのでお知らせします。詳細は、[ウェブサイト](#)に開示しております決算短信および決算電話会議資料をご覧ください。

記

1. 2024年3月期 第3半期累計(4月-12月) 業績概要

当該期間(2023年4月1日から2023年12月31日まで)における当社グループの事業環境は、ウクライナ・中東の地政学的問題、米中貿易摩擦、世界的な物価上昇、円安の進行、主要顧客のひとつである半導体産業の稼働状況などにより、引き続き、先行きを見通すことは困難な状況でした。また、主に鉄鋼、化学、石油精製向けにオンサイトで供給するセパレートガス(酸素、窒素、アルゴン)の出荷数量は、前期比で減少しました。一方、一部の地域ではセパレートガスの製造原価に多く占める電力コスト及び物流コストの負担は前期に比べ緩和されました。また、コスト増加分の販売価格への転嫁等のグループ全体での価格マネジメント、さまざまな生産性向上に取り組みました。

このような状況の下、当第3四半期連結累計期間における業績は、売上収益9,286億56百万円(前年同期比6.4%増加)、コア営業利益1,247億2百万円(同42.5%増加)、営業利益1,242億1百万円(同47.2%増加)、親会社の所有者に帰属する四半期利益733億94百万円(同40.1%増加)となりました。

(単位:十億円)	2023年3月期	2024年3月期	前年同期比		為替影響除き 増減率
	第3四半期 (4-12月期)	第3四半期 (4-12月期)	増減額	増減率	
<b>売上収益</b>	<b>873.0</b>	<b>928.6</b>	<b>+55.6</b>	<b>+6.4%</b>	<b>+1.9%</b>
<b>コア営業利益</b>	<b>87.5</b>	<b>124.7</b>	<b>+37.2</b>	<b>+42.5%</b>	<b>+35.1%</b>
コア営業利益率	10.0%	13.4%			
非経常項目	-3.1	-0.5	+2.6		
<b>営業利益(IFRS)</b>	<b>84.3</b>	<b>124.2</b>	<b>+39.9</b>	<b>+47.2%</b>	
営業利益率	9.7%	13.4%			
EBITDAマージン	19.1%	22.4%			
金融損益	-9.6	-15.9	-6.3		
<b>税引前四半期利益</b>	<b>74.7</b>	<b>108.2</b>	<b>+33.5</b>	<b>+44.8%</b>	
法人所得税	20.3	32.1	+11.8		
四半期利益	54.4	76.0	+21.6	+39.8%	
(四半期利益の帰属)					
<b>親会社の所有者に帰属する四半期利益</b>	<b>52.4</b>	<b>73.3</b>	<b>+20.9</b>	<b>+40.1%</b>	
四半期利益率	6.0%	7.9%			
非支配持分に帰属する四半期利益	2.0	2.6	+0.6		
為替レート(円)	USD(米ドル)	136.85	143.78		
(期中平均レート)	EUR(ユーロ)	140.83	156.24		
	AUD(豪ドル)	93.16	94.47		

## 2. 2024年3月期 通期業績予想

2023年10月31日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

	2023年3月期	2024年3月期	前期比		為替影響除き 増減率
	通期	通期予想	増減額	増減率	
(単位：十億円)		(2023年10月31日発表)			
<b>売上収益</b>	<b>1,186.6</b>	<b>1,230.0</b>	<b>+43.4</b>	<b>+3.7%</b>	<b>-0.1%</b>
<b>コア営業利益</b>	<b>123.1</b>	<b>155.0</b>	<b>+31.9</b>	<b>+25.9%</b>	<b>+20.4%</b>
コア営業利益率	10.4%	12.6%			
非経常項目	-3.5	8.0	+11.5		
<b>営業利益 (IFRS)</b>	<b>119.5</b>	<b>163.0</b>	<b>+43.5</b>	<b>+36.4%</b>	
営業利益率	10.1%	13.3%			
EBITDAマージン	19.3%	21.6%			
金融損益	-14.0	-24.0	-10.0		
<b>税引前利益</b>	<b>105.5</b>	<b>139.0</b>	<b>+33.5</b>	<b>+31.7%</b>	
法人所得税	29.5	38.5	+9.0		
当期利益	75.9	100.5	+24.6	+32.3%	
(当期利益の帰属)					
<b>親会社の所有者に帰属する当期利益</b>	<b>73.0</b>	<b>97.0</b>	<b>+24.0</b>	<b>+32.7%</b>	
当期利益率	6.2%	7.9%			
非支配持分に帰属する当期利益	2.8	3.5	+0.7		
為替レート (円)	USD (米ドル)	136.00	142.61		
(期中平均レート)	EUR (ユーロ)	141.62	154.81		
	AUD (豪ドル)	92.67	93.44		

※2024年3月期（通期）における為替換算による影響額合計見込み：売上収益 +449億円 コア営業利益 +56億円

(参考情報)

2024年3月期 第3四半期累計(4月-12月) 事業セグメント別業績概要

(単位:十億円)		2023年3月期	2024年3月期		前年同期比		為替影響	為替影響除き 増減率
		第3四半期 (4-12月期)	第3四半期 (4-12月期)	構成比	増減額	増減率		
日本	売上収益	300.5	<b>305.5</b>	32.9%	+5.0	+1.7%	+0.1	+1.6%
	セグメント利益	20.1	<b>33.2</b>	26.7%	+13.1	+65.2%	+0.0	+64.8%
	セグメント利益率	6.7%	10.9%					
米国	売上収益	223.6	<b>257.1</b>	27.7%	+33.5	+15.0%	+11.3	+9.5%
	セグメント利益	26.0	<b>35.8</b>	28.8%	+9.8	+37.5%	+1.3	+30.6%
	セグメント利益率	11.7%	13.9%					
欧州	売上収益	203.3	<b>223.1</b>	24.0%	+19.8	+9.8%	+22.2	-1.1%
	セグメント利益	25.3	<b>39.6</b>	31.8%	+14.3	+56.1%	+2.8	+40.4%
	セグメント利益率	12.5%	17.8%					
アジア・オセアニア	売上収益	122.8	<b>119.5</b>	12.9%	-3.3	-2.7%	+4.3	-6.1%
	セグメント利益	12.3	<b>12.6</b>	10.2%	+0.3	+2.8%	+0.3	-0.0%
	セグメント利益率	10.0%	10.6%					
サーモス	売上収益	22.6	<b>23.1</b>	2.5%	+0.5	+2.3%	+0.1	+1.5%
	セグメント利益	4.4	<b>4.3</b>	3.5%	-0.1	-3.1%	+0.1	-6.0%
	セグメント利益率	19.8%	18.7%					
調整額	売上収益	0.0	<b>0.0</b>	0.0%	-0.0	—	—	—
	セグメント利益	-0.8	<b>-1.0</b>	-1.0%	-0.2	—	—	—
連結合計	売上収益	873.0	<b>928.6</b>	100.0%	+55.6	+6.4%	+38.2	+1.9%
	セグメント利益	87.5	<b>124.7</b>	100.0%	+37.2	+42.5%	+4.7	+35.1%
	コア営業利益率	10.0%	13.4%					

【日本】

産業ガス関連の売上収益は、主力製品であるセパレートガス、及びLPガスの出荷数量は減少しましたが、コスト上昇を背景とした販売価格の改定効果により、増収となりました。また、エレクトロニクス関連での電子材料ガスの出荷数量は軟調でした。機器・工事では、産業ガス関連、エレクトロニクス関連共に、中大型案件の進行基準による計上等により、増収となりました。一方、特定顧客向けにオンサイト供給を担う子会社のジョイント・オペレーション化による減収影響がありました。

【米国】

産業ガス関連の売上収益は、主力製品であるセパレートガスの出荷数量は減少しましたが、販売価格の改定効果及び円安の影響により、増収となりました。機器・工事では、産業ガス関連はガス関連機器を中心に好調であり、エレクトロニクス関連も順調に推移し、増収となりました。

【欧州】

産業ガス関連の売上収益は、主力製品であるセパレートガスにおいては、出荷数量が微減となったものの、円安の影響もあり、増収となりました。機器・工事では、ガス関連機器及び医療関連機器の販売が好調で増収となりました。また、セグメント利益は、生産性向上の取り組みや円安の影響もあり増益となりました。

#### 【アジア・オセアニア】

産業ガス関連では、主力製品であるセパレートガスの出荷数量は減少しましたが、コスト上昇等を背景とした販売価格の改定効果により、売上収益は増加しました。なお、主に豪州地域での販売が多くを占めるLPガスでも、販売数量は減少しました。エレクトロニクス関連では、東アジアで、客先による在庫調整や設備投資の先送りに伴い、ガス・機器ともに軟調で大きく減収となりました。

#### 【サーモス】

日本では、ケータイマグ及びスポーツボトルの販売が好調で、売上収益は増加しました。また、海外での販売は前期並みでした。セグメント利益は、物価上昇による原材料価格の上昇と円安による製造コストの増加で、減益となりました。

以上

---

日本酸素ホールディングスグループは、日本、米国、欧州、アジア・オセアニアの4つの地域で30超の国と地域をカバーする世界第4位の産業ガス、電子ガス、医療用ガスのサプライヤーです。また、サーモス事業では、世界120カ国以上にTHERMOSブランド製品を供給しています。1910年に日本酸素合資会社として設立されて以来、当社グループは、革新的なガスソリューションを通じて社会的価値を創造し、産業の生産性を高め、人々の豊かで健康な暮らしとより持続可能な未来に貢献することを使命としています。19,000名以上の従業員を擁する私たちは、"The Gas Professionals"として、“進取と共創。ガスで未来を拓く。”という同じ目標を掲げています。

お問い合わせ先  
**日本酸素ホールディングス株式会社**  
広報部  
03-5788-8513  
Nshd.Info@nipponsanso-hd.co.jp